

2階建て以上に対応したユニット建築開発中

既存のホールダウン金物で、接合と施工容易に

広島建設（千葉県柏市、島田秀貴社長）とウイング（東京都、倉田俊行社長）は、共同でユニット建築の垂直連結施工の研究開発を進めている。既存のホールダウン金物を使って、クレーンによるつり上げや1階と2階部分の接合を容易にすることを目指している。

ユニット建築は、工場で工品質の向上にも貢献できる。躯体を組み上げて断熱材やサッシも取り付けた箱型ユニットを製造し、現場に施工された基礎に設置する手法。近年は、省施工化と施工容易に



つり上げられる箱型ユニット

省施工化と施工容易に

アイボルトを全ネジボルトに換装すること、上層階ユニットのホールダウン金物との上下階接合具として活用する仕組みだ。

昨年末には、実際のクレーンでのつり上げで問題がないかを検証する実証実験も行われた。千葉県流山市の広島建設の事務所、箱型ユニット4つを並列させて建設された。金物はカナイのブレイヴ

ホールダウン金物を用い、柱への接合には、耐力を向上させるためにシネジックのパネリッドを使った。箱型ユニットは一般的な2×4工法で作られたが、四隅の柱については4×4の集成材を使った。今回の1ユニット当たりの重さは1・5トだが、最大2・5ト程度までを想定している。内装は下地に吉野石膏のタイガーFeボードを張ったうえでマグネットクロス

を張ることで移築を容易にしている。箱型ユニットは、関根エンタープライズUFC（埼玉県越谷市、塩田雅裕社長）の物流拠点で製造し、配送された。ユニット設置前後の状況確認は目視検査のほか、3次元測定機を用いて実施し、新たなユニットの開発にも生かしていく。

今後、こうした実証実験を重ねて、2階建て以上に対応したユニット建築の確立を目指していく。